くすのき

稲敷市立あずま西小学校
学校だより
NO.11
令和７年　２月　７日発行
文責：松本　雅彦

本物に触れる大切さを!!

今年度から、『ラーケーション』という新しい試みを実施していることは、保護者の皆様もご存じの通りです。『ラーニング（学ぶ）』と『バケーション（休み）』を合わせたこの造語には、日頃の学校生活や授業では味わうことができない体験や経験を、家族の皆様と味わい貴重な学びにつなげてほしいというねらいがあります。

また、本物に触れる体験や経験において、学校では校外学習や講師を招聘した学習という形で年間計画を立てて実施しています。

先日、スポーツ庁委託事業のアスリート派遣事業で、５・６年生が陸上競技選手である相山慶太郎（あいやまけいたろう）さんにお越しいただき、速く走るための授業を実施しました。

さすがに、現役アスリートとして活躍しながらコーチとして大学や実業団チームの指導に携わっている方だけあって、ポイントをおさえてスモールステップで指導を進めていく姿は素晴らしく、子どもたちの走るフォームがみるみる変容し、足の回転がスムーズになりました。

相山さんと子どもたちの
集合写真

よく、「百聞は一見にしかず」といいますが、本物に触れることで得られる体験は何にも代えがたいものです。ぜひ、その一瞬を大切にして成長の糧にしてほしいと思います。

Inashiki English News より

稲敷市では今年度より、市内の５年生を対象とした「スポーツを通した英語授業」を実施しています。これは、体を動かしながら英語を使うことで単なる知識としての英語ではなく、生きた場面で英語が使えた！英語が通じた！という経験をさせるねらいがあります。

子どもたちは、筑波大学院留学生と単語をつくるゲームをしたり、一緒に給食を食べたりして、英語でのコミュニケーションを楽しむことができました。

筑波大学院留学生と一緒に
給食を食べる５年生の写真

俳句名人！３年生

今年度第３学年では、授業の一環としてつくった俳句をコンクールに応募するＯＮＥチャレンジに取り組んでいます。年間を通じて、以前にも紹介しましたが将来の松尾芭蕉や小林一茶が育っていますので、この場で紹介させていただきます。

【読売新聞ＫＯＤＯＭＯ俳句】
『かき食べて　元気いっぱい　すずめの子』　女子児童

【第42回全国児童生徒俳句大会 】
特選『いねかりや　田んぼ一面　きらきらと』　女子児童
入選『やきいもの　ゆげがほかほか　もう一こ』　女子児童
入選『わたの実が　たくさんはじけて　ふわふわと』　女子児童
入選『かき落ちて　ぼくのシュートは　七本目』　男子児童
入選『真っ赤だな　細い花びら　ひがん花』　女子児童